

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 27 年 2 月 5 日			
所属学部・研究科	文学部研究科大学院1年次 (留学開始時点)			
留学先大学	ネバダ大学リノ校 IELC (国名: アメリカ合衆国)			
所属学部・学科等名	Intensive English Language Center			
在籍身分	交換留学生			
留学期間	平成 26 年 8 月 21 日 ~ 平成 26 年 12 月 12 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: F1			
	ビザ申請先: 米国大使館 (大阪)			
	取得方法, 提出書類: パスポート、I-20、面接予約証明書、SEVIS 支払い証明書、残高証明書、在学証明書 ※証明写真が規定を満たしていない場合、大使館で撮り直しをさせられる。			
	手続きに要した日数: 約2週間			
その他必要な事前手続き				
出国年月日	平成 26 年 8 月 9 日			
経路	広島空港→北京空港→ロサンゼルス空港→友人の車でリノへ			
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	21、22 日にクラス分けテスト、予防接種、施設案内、保険の確認、授業の説明等が行われた。			
帰国年月日	平成 27 年 2 月 2 日			
経路	リノ・タホ空港→ロサンゼルス空港→成田空港→福岡空港			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	119 万	円	
	内訳	渡航費	25 万	円
		保険料	7 万	円
		教科書代(学費)	2 万	円
		宿舍費	25 万	円
		食費	20 万	円
		その他 (旅行 費)	30 万	円
(娯楽 費)	10 万	円		
(費)		円		
3. 授業について				
2014 年 秋学期	8 月 21 日 ~	12 月 12 日		

年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	Intensive English Language Center
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	宿題が大量に出ます。慣れるまでは大変ですが、きちんとこなすことで必ず英語の力が伸びます。授業中は、積極的に発言することをお勧めします。他国からの留学生に比べ、日本人は質問したり意見を述べたりすることが少ないので、躊躇せずに思ったことは言った方がよいです。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	わからない 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (4 人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input checked="" type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 (洗濯機・乾燥機)
住居費	1ヶ月当たり 400 \$ (現地通貨) 約4万円
住居を決定した方法	<input type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input checked="" type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	アメリカでは共同生活が一般的。個人部屋ありでキッチンやシャワーは共有というハウスシェアや、部屋まで共有するルームシェアなどがあるので、自分の性格にあった生活様式を選びましょう。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	半年 7万 円 補償額 死亡 1000万 円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種の必要の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	日本で受けることもできるが、英語の証明書提出などが面倒だったため、キャンパス内のヘルスセンターで受けた。
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:

留学先国の医療事情 (日本と比較して)	医療費が高額。	
留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	朝夜と昼の温度差が激しいです。また室内では暖房・冷房が効いている為、冬でも校内では半袖の生徒もいました。重ね着など着脱しやすい格好がよいでしょう。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
ダウントウンは暗くなると一人では歩かないようにしました。ニューヨークに旅行した際、地下鉄内に麻薬を持った人が入り込んだらしく、出て行くとアナウンスが流れたことがありました。非常事態に直面しても落ち着いて行動することが大切です。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
乾燥しているので、クリーム類は多めに持参した方がよいです。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 28 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 28 年3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	教員採用試験に向けて勉強	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	IELC の授業は外国語の単位にしかならないため、留学前になるべく単位を取得しておきましょう。	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
アメリカではイベントやサークル活動が盛んに行われており、それらへの参加は IELC ではなかなか関わる事ができないアメリカ人と接するいい機会になるはずです。興味があるアクティビティにはぜひ積極的に参加してみてください。		

学習の概要に関するレポート

私はIELCに約半年間留学した。IELCはいわゆる語学学校とはやや異なり、留学生がアメリカの大学で学ぶためのスキルを養う場所である。そのためエッセイの書き方やノートテイキングの練習など、日本の英語の授業ではあまり習わないことを一から学ぶことができる。まずIELCでは、オリエンテーションで受けたテストの結果によって4つのレベルにクラス分けされる。自分で申請すればレベルを変えてもらえることもあるが、基本的にミッドタームまでクラスは変わらない。私のクラスは中国人2人、日本人5人、ブラジル人9人という構成だった。IELC全体でもブラジル人が最も多く、次いで日本人が多かった。そのため日本人との付き合い方に気をつけなければ、せっかく留学しても日本人とばかり居てしまうことにもなりかねない。勿論困った時には助け合うこともできるので、距離感を考えて行動することが必要である。

IELCの授業は月曜日から金曜日まで毎日行われ、金曜日以外朝8時から12時までである。曜日によって1つの授業の時間や教室は変わるが、毎日3つの授業を受ける。1限目はintegrated skillsという授業で、約1ヶ月毎に4～5つのトピックから自分の興味のあるクラスを1つ選ぶ形式である。内容はもちろん、授業形態や課題などが担当する先生によって全く異なる。私はボランティアサービス、ウォルト・ディズニー、建築、ディスカッションなどのクラスをとった。フィールドワークやボランティア活動など校外での活動もあり、非常に面白かった。アメリカやリノについて知ることもできたし、integrated skillsでは他のクラスの生徒とも一緒に授業を受けられるので、この授業を通して友達をたくさん作ることができた。

2限目はreading/writingである。リーディングは速読の練習や、アメリカ小説を読み、その内容についてディスカッションをしたりした。ライティングはエッセイの種類や書き方について学んだ。少しではあるが、文法や英単語を学ぶ時間もあつた。毎週授業中にタイムリーディングとタイムライティングのテストがあり、最初は時間内に終わらないこともあつたが、定期的に受けることで次第に力が伸びてきたことを実感できた。セメスターの後半からは、宿題として小説を1週間で60～100ページ読まなければいけないため、要点をしぼって読むタイムリーディングの力は必要不可欠になる。配布されるオーディオ教材もよく活用した。

3限目はlistening/speakingである。リスニングはTEDのスピーチを聞いたり、レクチャーを聴いてその内容をノートにまとめる練習をしたりした。スピーキングではディスカッションをしたりパワーポイントを作ってプレゼンテーションをしたりした。私はプレゼンテーションが苦手で、はじめは原稿から目を離せずに先生に注意されていたが、毎週さまざまなテーマや形式で発表していくうちに、原稿なしでも自信を持って発表できるようになった。他国からの留学生はプレゼンテーションに慣れており、パワーポイントの作り方や人前での話し方など、見ていて勉強になった。どの授業でも毎日課題が出る。私は放課後に図書館でクラスメイトと一緒に課題をすることが多く、わからない所は互いに教えあい、楽しみながら勉強できた。ペアワークやグループワークの課題では、原稿やパワーポイントを作る際に考えや進め方の違いに苦労したこともあつたが、英語でコミュニケーションをとるよい機会になったと思う。また仲良くなったアメリカ人の友人や、会話パートナー達にエッセイや宿題を見てもらったりもした。自分では気がつかない不自然な英語や文法ミスを直してもらうには、やはりネイティブにチェックしてもらうことが一番である。わからない事があれば、オフィスアワーに先生方に質問しにも行った。苦手な分野ごとに役立つ参考書やウェブサイトを教えてくれたりもするので、行くことをお勧めする。

IELCでは毎週金曜日にイベントが催され、他クラスの生徒と交流したりアメリカ文化に触れたりできる。これは普通の大学にはない、留学生のための学校ならではの利点だと思う。逆に言うと、IELCで授業を受けるだけではあまりアメリカ人と関わるができない。そのため自分で会話パートナープログラムに申し込んだり、クラブ活動に参加したりした。私はミュージック、ボランティア、日本文化、国際交流などのクラブに行っていた。セメスターはじめにクラブフェアがあるので、そこで興味のあるクラブを探すといいと思う。大学やダウンタウン等でも様々なイベントがあるので、これから留学する人には積極的に参加してほしい。

生活の概要に関するレポート

私は留学中、学校から歩いて20分程の家にホームステイしていた。もともとインターナショナルハウスに住みたかったが、申し込みが遅かったため部屋が空いておらず、インターナショナルハウスのオーナーに紹介してもらったアメリカ人の家に住むことにした。家はやや学校から離れていたがオーナーが自転車を貸してくれたので、あまり不便に感じることはなかった。帰る時は学校から家まで車で送ってくれるキャンパスエスコートをよく利用していた。私がお世話になった家は、1・2階にオーナー夫妻が住み、3階に私とトルコと中国からの留学生が住んでいた。ホームステイといっても、オーナーは基本的に留学生の住む3階スペースには干渉しないため、ハウスシェアという感じであった。3階の共有スペースにはキッチンとリビングがあり、よく留学生同士で自国の料理を作って振舞っていた。個人部屋には勉強机、ダンス、ベッド、シャワー、トイレ等が設備され、生活に必要なキッチン用品や寝具などは全て揃っており、家での生活は非常に快適だった。ただ、真夜中でもハウズフレンドが大声でスカイプをしていたり、リビングでパーティーをしていたりということは日常茶飯事だったので、騒音に耐えられない人には厳しいかもしれない。

安全面については、暗くなったら複数で行動する、キャンパスエスコートや車を持っている友人に送迎を頼むなど、一人では出歩かないように心がけた。リノは比較的安全な場所ではあるが、ダウンタウンにはバーやカジノが多くあり、ホームレスもいるので、夜の一人行動は危険である。

食事については、私は朝・夜は自炊し、昼は学校で買って食べるが多かった。リノにはアジアマーケットもあるし、やや高めではあるが普通のスーパーにも日本の食べ物が売ってあるため、あまり食事関連で困ることはなかった。徒歩圏内にはあまり大きな店はないが、毎週土曜日に学校からスーパーマーケット行きの無料バスが出ているので、それを利用したり、友人に車で連れて行ってもらったりしていた。ミールプランで毎食外食するよりは、キッチンのある場所に住み、自炊の方が金銭的にも健康的にもよいと思う。

お金について。アメリカでは小額であってもカードを使い、現金を持ち歩かない人も多い。紛失したり、旅行などで使える金額の上限を超えてしまったりなどのトラブルに備えて、2枚はカードを持っていく方がよいと思う。私は先輩からスキミング被害を聞いていたので、小さな店などあまり信用できない所ではカードではなく、現金で払うようにしていた。